

平成29年度 第2回 デイサービスセンターべるグリーン 運営推進会議

日時:平成30年 3月10日(土)

10:30~11:25

場所:デイサービスセンターべるグリーン

田原町自治会長		出路・田原町民生委員		地域包括支援センターいなえ			
	×		×		○		
利用者ご家族							
A 様		B 様					
	○		○				
代表取締役		通所系サービス部長		責任者・生活相談員		生活相談員	
鈴木 則成	○	金戸 保之	○	吉田 恵美里	○	奥山 歩	×

1. 挨拶

鈴木ヘルスケアサービス株式会社 代表取締役 鈴木則成

2. 出席者紹介

計 6 名 上表参照

3. 議題

・デイサービスセンターべるグリーンの活動報告について

→吉田より説明と紹介する。

・意見交換

・A 様:べるグリーンでは家事活動をさせてもらっているが、家ではなかなか出来ないし、見守ることも難しい。「料理を手伝った」と帰ってから言うことがあったので、得意なことなどは記憶に残っているのだと思った。いつもこちらから聞いたりするが、忘れていた事もある。本人は畑が好きそうだった。

・B 様:いつも感謝しております。家では細かい付き合いができないので喜んでいる。体重も増えて健康になってきたと感じる。昔ながらの料理や季節感のあることをしてもらっている。デイでの手先を使う活動で元気になった。みんなと一緒にゲームをして負けん気が出ていると思う。初詣やファミレスへ外食など、家族が連れて行くことが出来ないのを助かる。家でバタバタしてしまうと服の着脱も雑になってしまい「痛い！」と言われた事がある。介護することの難しさや人の気持ちが伝わるものだと痛感した。

・地域包括様:家での様子を家族の皆さんに聞かせてほしい。

・A 様:家族や身近な者は言い方がきつくなってしまうことがある。

・B 様:認知症外来で医者に「調子が良く、家族の世話が楽になった」と言ったら、「先のことを考えると不安があり苦しいが、考えることがなくなったからだ」と言われた。先のことを考えすぎないことが大事だと分かった。

- ・吉田: 多くのことを伝えると難しく感じられ、いっぱいになられてしまうので気を付けている。
- ・A 様: きつく言うと反射的に言い返してくる。分かっているのだが、またそれに腹が立ってしまう。
- ・B 様: 認知症外来の医者から「認知症になるとその人の素の部分が見えてくる」とも言われた。その人の素の性格が分かったように思う。
料理は段取りを考えるから、台所仕事は大事だと思うが、家では何もさせていない。水を入れずにご飯を炊いていたことがあったから。
- ・A 様: 彦根に呼ぶまで大阪で夫婦ふたり暮らしていたことがあった。近くにスーパーがあり便利だったようだが、徐々に料理が出来なくなったのか総菜を買うようになっていた。認知症の初期だったのかと今思う。
- ・地域包括様: その方々の歴史や生活の経験があり、今がある。中には仕事をしてきた人(女性でも)は料理ができないことがある。それぞれ生き方が違い、プライドもあるので配慮が必要である。
周りの方で介護について困っておられたら、是非声をかけてあげて欲しい。経験を伝えてほしいと思います。

次回開催予定:平成30年 9月 土曜日(午前)